

櫻木学長 祝辞

本日、岡村賞を受賞された皆様、誠におめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。また、大変お忙しい中、審査に当たっていただきました審査員の先生方に厚く御礼申し上げます。

この女性研究者表彰制度【岡村賞】は、女性研究者の継続的な研究活動を推奨し、次世代の優秀な女性研究者を育成することを目的として、2014 年（平成 26 年）に創設された賞です。「岡村賞」の名称は、本学のルーツのひとつであり、大阪市立大学の前身、大阪商科大学を 1950 年（昭和 25）年に卒業された岡村千恵子さんのお名前に因んで命名されました。

約 100 年前、1928 年（昭和 3 年）、日本初の市立^{いちりつ}大学として開学した大阪商科大学は、戦後、岡村千恵子さんが入学された当時は、男女共学になったばかり。岡村さんは、大阪商科大学での女子としては最初期の卒業生のお一人であり、正確な記録はございませんが、初めての女性卒業生ではないかというふうに伺っております。当時の女性卒業生はたった二人だったそうです。

この賞は、その岡村千恵子様が「女性研究者の育成・支援のためにお役立てください」と、大阪市立大学の教育後援会へお寄せいただきましたご寄附を基に、2014 年（平成 26 年）に、大阪市立大学の女性研究者表彰制度として開始された表彰制度です。

大学統合を経て大阪公立大学となってからは、この岡村賞を女性研究者に対する学長表彰制度の一環と位置づけ、毎年、優れた研究・教育活動を行い、意欲的にジェンダー平等に貢献している女性研究者、女性大学院生に対して贈られております。

例年、本賞の運営に多大なご支援いただいております大阪公立大学の教育後援会様には、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。また、本日、この会場にもお越しいただいておりますが、かつて大阪市立大学で大学運営本部 事務部長を務められ、現在は 2025 年日本国際博覧会協会へ派遣（出向）されておられます、大阪市万博推進局理事の折原真子様からも、「岡村賞が女性研究者の晴れ舞台の役割を果たしていくように」とのご厚意で、多額のご寄付をいただき、本賞の運営にご支援を頂いております。心より御礼を申し上げます。折原理事様には、この後、ご挨拶を頂戴できればと存じます。

本日受賞された 6 名の皆様には、今回の受賞をステップに、さらに大きく飛躍されることを期待しています。そして、また、皆さん方をロールモデルとして、これから、皆さんの後に続く多くの女性研究者が生まれ、活躍していかれることを大いに期待しております。

さて、本日の開式前にも映像が流され、本学 website の広報ページでも紹介されておりますが、本年、大阪公立大学は、国立研究開発法人科学技術振興機構（いわゆる JST）が主宰する「第 7 回・輝く女性研究者活躍推進賞（ジュン アシダ賞）」という名誉ある賞を頂きました。この賞は、女性研究者の活躍を推進する大学、公的研究機関、企業等の優れた取り組みを国が表彰する制度で、大学としての受賞は、九州大学（2019 年第 1 回）、群馬大学（第 2

回)、名古屋大学(第3回)、東北大学(第4回)以来の5大学目で、大変名誉なことです。去る11月26日に東京の日本科学未来館で表彰式があり、本学を代表して表彰状と受賞トロフィをいただいて参りました。授賞式での受賞記念スピーチの中で、この「岡村賞」についても紹介させていただきました。

今回の「輝く女性研究者活躍推進賞」の受賞は、この岡村賞の取り組みを含め、大学統合前より大阪府立大学、大阪市立大学が共に組織として取り組んできた女性研究者活躍推進を、大阪公立大学がしっかりと継承・発展させ、大学・法人一体となって戦略的に取り組んできた姿勢と成果が評価されたものであり、今日まで女性研究者の活躍推進に携わってこられたすべての関係者の皆様(教職員、研究者、学生)の熱意とご尽力によるものと、深く感謝、御礼申し上げます。

私自身は、原子核物理学の分野で長年研究をしてまいりましたが、海外では、もうずいぶん前から、非常に多くの女性研究者が活躍しており、国際学会などでも、参加者の3割から5割が女性研究者である、という光景も珍しくありません。実際に、DirectorやPIとして、指導的立場で大きな研究チームやプロジェクトを率いて活躍されている女性研究者も大勢おられます。私自身も、その何人かと共同研究を行い、共著論文を書いた経験もあります。

日本国内にも、まだまだ、その割合は少ないですが、非常に優れた女性研究者も増えてきており、私自身の原子核物理学の研究者でも、京都大学や東北大学の原子核物理学の教授は現在、女性の方です。

「研究の世界に、研究者としての資質や能力にジェンダー差はない」というのが私の持論であり実感です。国内外を問わず、そもそも研究者としての資質・ポテンシャル・能力に男女差はないと、私は断言できます。これは、研究者に限らず、あらゆる職種、あらゆる活動においても同じです。

そのジェンダーギャップは、我々の心が創り出しているものだと思います。そこには、もちろん、複雑な歴史や文化、社会背景や環境など、様々な要因があると思います。しかし、振り払うべきは、その底流にある固定観念、アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)であり、それにどう立ち向かい、どう対応していくのか、その意志と覚悟の問題ではないかと思います。

本日受賞された皆様方は、そのような、様々な困難もある中で、それらを克服し戦いながらも、自らの力と可能性を信じて日々努力を積み重ねて来られた皆さんだと思います。

皆さんお一人おひとりの通って来られた道のりと努力、そして、何よりも、素晴らしい研究成果をあげられたことに、心より敬意を表したいと思います。

大阪公立大学は、これからも、皆さん方をはじめ、多くの女性研究者の皆様の活躍を支援し、活躍できる環境をより充実して参ります。そして、真に女性研究者が輝ける大学にし、「景色を変える」ための取り組みを継続して参ります。

本日、この会場にご参加の皆様の、より一層のご支援・ご協力をお願いいたしまして、私のお祝いのご挨拶とさせていただきます。

受賞者のみなさま、本日は本当におめでとうございます。